三鷹市立南浦小学校　令和8年度【理科】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年		○実験器具や機器の扱いに関して、手先の不器用な児童にも個別で声をかけたり、班で協力して活動したりと環境を整えることで実験や観察ができていた。 ○その場での振り返りはできていたが、前回までの学習と比較して次につながるような振り返りができる児童は少ない。	○児童の実態に合わせて、活動形態を工夫しながら全員が実験器具を活用して実験する機会を多く設ける。また観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けられるようにする。 ○その場での振り返りでとどめるのではなく、単元での学習を振り返って意味付けたり、振り返りを次の問題発見につなげたりするなど、学習に連続性をもたせるようにする。
第4学年	○自分の意見と他人の意見の共通点や相違点に着目して考えることはできるようになってきた。 ○自然の事物・現象をよく観察し、違いを見付けることは上手になってきた児童が増えた。	○課題に対し、自分なりの考えをもつことはできているが、それをどのようにしたら確かめられるかの実験方法については考えられない児童が多い。 ○実験結果から考察したことをノートに書けない児童が多い。	○実験方法については、既習の方法（過去の実験方法）を想起させ、選ばせるようにする。 ○実験後のまとめを児童の言葉の中から導き出し、丁寧に考えさせる。それにより、次の課題も導き出すようにする。
第5学年	○全員が実験器具を活用して実験する機会を多く設けたことで、基本的な技能を身に付けられるようになってきた。 ○視点を与え、書く時間を十分にとることで、実験結果から考察したことを書く経験を増やした。	○解決したい問題について予想はするが、既習内容や生活経験と結び付けられていないことが多い。 ○「変える条件」と「変えない条件」を明確にするという問題解決の方法を学んだ。しかし、自ら制御すべき要因と制御しない要因を区別しながら実験方法を考えたり、結果をまとめたりすることができる児童は少ない。	○予想を書く前に、解決したい問題に関連する既習内容や生活経験に触れ、予想の理由となるものを想起させる。そして、書く時間をしっかりと設ける。 ○実験計画を考える時間をしっかりと設ける。小グループ（３～４人）で考えたことを伝え合ったり、分からない児童には教え合ったりする時間を取り入れる。そして、全体で実験計画をしっかりと確認する。また、「変える要件」と「変えない条件」を視覚的に区別できるような表を用意する。
第6学年	○小グループで考えたことを伝え合ったり、分からない児童には教え合ったりすることで、制御すべき要因と制御しない要因を区別しながら、実験方法を考えることができるようになってきた。 ○授業の中で、タブレットの活用方法を全体で確認し、実験結果の共有がスプレッドシートを使ってできるようになった。	○より妥当な考えをつくりだすために、クラス全体の結果を踏まえて考察できる児童がいる一方で、自分の班の結果からの考察に留まってしまう児童もみられる。 ○観察・実験などの結果を基に、予想や観察・実験などの方法を振り返り、再検討したり、習ったことを生活に生かそうとしたりする児童が少ない。	○実験結果をグループごとに発表させ、全体で確認できるようにする。全ての結果を見て、考察を書くように指導する。また、よい考察が書けている児童のノートを紹介し、書けない児童への手立てとする。 ○観察・実験などの結果を基に、自分の予想は正しかったのか、実験方法は適切だったのかを振り返る時間を設けるようにする。また、学習したことが日常生活にどう生かせるのかを考え、発表し合う時間も設ける。